

学校の共通目標

授業作り	重点	・授業改善を繰り返し、基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着を図る。 ・タブレット端末を有効活用して、知識・技能の定着を図る。 ・思考力・判断力・表現力等を高めるために、SDG sの推進と意識づけを図る。	中間評価	・教員及び生徒の双方が学習場面に応じて、タブレット端末を効果的に活用している。 ・道徳地区公開講座等を通じて、SDG sを意識した取り組みを行っている。	最終評価	・ICT機器を活用した授業展開が、生徒・教員ともに定着しし、主体的に考える授業の充実につながった。 ・放課後のサブリタイム、英語と数学の少人数クラス、そして1年生の補習教室を実施することで、きめ細やかな指導が実施できた。
環境作り		・本時の目的を意図的・計画的に示す学習指導を展開するとともに、小規模校の利点を生かし生徒の変容をきめ細かく捉え、指導と評価の一体化を図る。 ・授業を受ける姿勢（授業規律、聞く態度、発言の仕方等）を徹底し、落ち着いた学習環境を整える。		・小規模校の利点を生かして、全教職員によるきめ細かい見取りを行い、落ち着いた雰囲気です授業を行っている。		・教員と学習指導支援員、そして生徒がともに協力することで小規模校ならではの授業や様々な活動を通して、集団として成長できる機会を設けることができた。 ・校内環境に気を配り、教職員同士の細やかな連携により、生徒の健全育成を推進することができた。

教科の取組内容

教科	学習状況の分析（4月）	課 題（4月）	改善のための取組（4月）	中間評価・追加する取組（10月）➡	最終評価（2月）
国語	調 3学年は新宿区学力調査の「漢字を読む」において、問題の内容別正答率が95.4%で、全国平均正答率よりも5.8ポイント上回った。一方で領域別正答率の「書くこと」は全国平均正答率よりも12.3ポイント下回った。 調 2学年は新宿区学力調査の「説明的な文章の内容を読み取る」において、全国平均正答率よりも20ポイント上回った。	・3学年は、書くことに対する苦手意識をなくし、日々の授業の中で定期的に文章を書くことに取り組ませる活動を設定することが今後の課題である。 ・2学年は自分の言葉で文章を書くという取り組みに苦手意識が見られるため、問いに応じた適切な言葉を選択し、書くという活動の充実を図っていきたい。	・3学年は短い作文に取り組む活動から始め、都立高校入試を見据えて200字作文などにも定期的に取り組ませていく。 ・2学年は定期的に漢字や文法の小テストを行うとともに、読書活動や情報収集活動を設定し、文章から読み取った内容を精査して自分の言葉でまとめる練習を積み重ねていく。	・3学年は、今年度の新宿区学力定着度調査では「情報の扱い方に関する事項」と「書くこと」で全国平均を3.8ポイント下回っていた。事実と意見を結び付けて記述する力がまだ十分でないため、定期的に短い作文に取り組ませ、制限字数に合わせて必要な事項をまとめる力をつけさせていく。 ・2学年は読書活動や調べ学習など、教科書以外の教材を様々な用いて幅広い学習活動を行ってきた。その中で、事実をまとめる力や自分の言葉で意見を表現する力がついてきた。一方で漢字や語句の知識の定着度は高くないため、課題や小テストをこまめに設定し、計画的に学習する習慣をつけさせたい。	学 3学年は3年間の総仕上げと高校入試に向けた練習として、小作文の課題に定期的に取り組ませ、自分の意見を理論的に表現する力が身に付いた。 調 2学年は、観点1「知識・技能」と領域1「言葉・情報・言語文化」において全国平均を10.3ポイント下回っていた。漢字や語句の小テスト、既習事項を活用した言語活動など、学習した内容をアウトプットする機会を多く設定する必要がある。 調 1学年は、領域4「読むこと」において全国平均を1.8ポイント下回っていた。文章中から筆者の主張を読み取る力、設問の意図を正しく理解する力が、今後の読解問題を解くうえで必要とされる。様々な分野の文章を通じ、多様な視点で読み取る力を身に付けさせる。
社会	調 3学年は、新宿区学力調査において、「基礎」の正答率が全国平均を0.4ポイント上回った。また、「活用」の正答率は全国正答率を8.3ポイント上回った。 調 3学年では、全国平均正答率を9.3ポイント上回っている。 調 2学年は全国平均と比べ、「基礎」は1.7ポイント下回ったが、「活用」では2.7ポイント上回り、全体としては0.4ポイント下回った。領域別正答率では、全国平均と比べ、「地理」は3.7ポイント上回ったが、「歴史」では5.1ポイント下回った。観点別正答率では、「思考・判断・表現」と「主体的に学習に取り組む態度」では全国平均を上回ったが、「知識・技能」では1.0ポイント下回った。	・3学年は、基礎基本の定着が不十分である生徒も一定数みられるため、受験へ向け、タブレットのドリルなどをさらに活用を図っていきたい。 ・3学年は、活動型授業の中で思考をする中で知識を身につけるという流れが定着したと考えられ、継続していく。 ・2学年は、歴史と基礎事項の習得が不十分であると考えられるため、歴史の復習に力を入れる。	・3学年は、基礎的・基本的な用語が定着しつつある。引き続き、適宜小テストを行い授業内での確認を行っていく。 ・3学年は、ディベートや調べ学習に発表など活動型授業の取り組みを一層充実させ、必要に応じて個別の声掛け・支援をさらに行っていく。 ・2学年は、地理歴史共に基礎事項の定着を目指して、授業内容の定着の確認として、タブレット端末のデジタルドリルに取り組ませる。	・3学年は、今年度の新宿区学力定着度調査では「基礎」の正答率が全国平均を3.4ポイント下回った。出題形式では、「短答式」が全国平均を13.6ポイント下回っている。基礎基本の用語の定着ができていない生徒が多く、既習事項の確認に課題がある。基礎・基本の定着に重きを置き、さらに取り組んでいく。 ・個別の声掛け、課題の取り組みに責任を持たせることで、昨年度に比べ生徒がより意欲的に参加できるようになった になった。 ・2学年はデジタルドリルとワークに取り組ませて、基礎内容の定着を図っている。調べ学習や個別の支援を通じて、より一層基礎事項の習得に努めさせたい。	学 3学年は、3年間継続して活動型の授業を行い、調査したことをわかりやすく伝えるとったプレゼンテーション力の向上だけでなく、思考する中で基礎知識の定着を図ることができ、成果を小テスト等でみることができた。 調 2学年は、新宿区学力定着度調査において、社会科の平均正答率が全国平均を3.1ポイント下回った。観点別では思考・判断・表現が全国平均より4.6ポイント下回り、領域別では歴史が4.8ポイント下回っている。ワークを活用した基礎基本の定着はもちろん、今後は資料から読み取り説明する場面や歴史の流れを大観して自分なりにまとめるなど、応用問題や記述問題にも取り組まなければならない。 調 1学年は、新宿区学力定着度調査において、社会科の平均正答率が全国平均を2.6ポイント下回った。領域別では、「地理」が6.7ポイント、「歴史」が13.3ポイント全国平均を下回っている。また、観点別では、「思考判断表現」が全国平均を5.3ポイント下回っている。学習習慣と基礎学力の定着ができておらず、デジタルドリルやワークを活用して基礎・基本の定着を図らなければならない。

数 学	【調】 3学年は、新宿区学力定着度調査の結果では全国平均より11.4ポイント上回った。 【調】 2学年は、新宿区学力定着度調査の結果では全国平均より3.6ポイント上回っており、いずれの領域についても全国平均を上回った。	・3学年は、数学に苦手意識をもつ生徒が少なく、授業にも前向きに取り組んでおり、特に大きな課題は見られない。 ・2学年は、家庭学習を継続して行う意欲や、学習を調整する力が十分に身につけていない生徒がいる。 ・1学年は、数学に苦手意識をもつ生徒が多く、分からない問題を自分の力で解決することが難しい生徒がいる。	・単元ごとに、課題プリントを出し、その成果を見取ることで、それぞれの生徒がどこまで内容を理解しているかを教師が把握し、指導に活かす。 ・基礎的な計算などにおいて、既習事項と十分に関連付けながら授業を展開していく。 ・ノートの記述、問題集の記述を小まめに見取ることで、生徒の学習状況や取り組み方を把握し、助言・支援していく。	・3学年は、全国学力調査での正答率が全国を5.6ポイント、新宿区を3ポイント上回った。授業に集中して取り組んでおり、難しい問題にも意欲的に取り組んでいる。 ・2学年は、授業の取り組みがよくなり、教師の発問に対して前向きに取り組む生徒が増えた。一方で、その知識はなかなか定着せず、学力向上につながっていない。基礎的な問題を反復して取り組ませ、知識の定着につなげる。 ・1学年は、集中して長い時間取り組むことが難しい生徒が多い。授業規律を作ったうえで、数学的な楽しさを伝えられるよう説明に工夫し、まずは授業を受ける姿勢を身に付けさせる。	【調】 2学年は新宿区学力定着度調査での正答率が、3.5ポイント上回った。単元ごとに分析すると、文字を用いた式や、円・2球など、学習してから時間の経った単元で全国平均を下回った。3学年で文字式の計算や空間図形を学ぶ際に、過去の単元と関連付けるなどして、復習しながら取り組めるよう指導していく。 【調】 1学年は新宿区学力定着度調査での正答率が、全国に比べて2.5ポイント上回った。記述式の問題では全国に比べて2.8ポイント下回った。次の学年では証明を要する記述問題もあるので、論理立てて文章を構成できるように、丁寧に指導していく。 【学】 1、2学年は、課題に取り組む姿勢がついてきた。復習を重ねて基礎学力の定着につなげる。 【学】 学期ごとの、生徒を対象とした授業アンケートで、「もう少し詳しく説明してほしい」という意見があったため、授業改善につなげた。
	【調】 3学年は、新宿区学力定着度調査の結果で、全国の平均正答率を4.0ポイント、新宿区平均正答率を2.8ポイント上回った。また、すべての領域で全国平均、新宿区平均を上回った。 【調】 2学年は、新宿区学力定着度調査の結果で、全国平均正答率を2.0ポイント、新宿区平均正答率を4.5ポイント上回った。また、新宿区学力定着度調査すべての領域で全国平均、新宿区平均を上回った。	・3学年は、基礎学習を多く行った成果が表れた形となった。ただし「生物と細胞」の単元で力を補充する必要がある。 ・2学年は、理科への関心も高く授業に積極的に取り組んでいる。これが、新宿区学力調査の結果がすべての領域で平均を上回っていることにつながっている。ただし、「物質の状態変化」の単元で力を補充する必要がある。	・2学年、3学年ともに学力調査で判明した定着が乏しい単元に焦点を当て、今一度学びの確認を行うことで確実な知識・技能の定着を図っていく。 ・単元末の探究活動など幅広い視点で学習に積極的に取り組むことで深い学びにつなげ、理科への関心を高めていく。	・3学年は全国学力調査での正答率が全国を8.7ポイント、新宿区を7ポイント上回り、領域別でも「エネルギー」「粒子」「生命」「地球」の全てで平均を超えた。一方、新宿区学力調査では、ほぼ全国平均で、新宿区平均は若干上回る結果となった。領域別では領域4「気象とその変化」で全国、新宿区ともに20.0ポイント上回ったものの、領域3「生物のつくりと働き」で14.3ポイント下回る結果となった。この結果をもとに領域3「生命」についてドリルパークを活用し、3学年の生物の単元では復習も交えて授業展開するなど、知識技能の底上げにつなげていく。 ・2学年は、化学の基礎知識が依然不足していると感じるので、語句や元素記号などの暗記面からドリルパーク等を活用しながら力を高めていく。	【学】 3学年は定期的に既習分野を織り交ぜながら授業を展開することで知識が横断的につながりより良い定着になった。来年度も継続していきたい。 【調】 2学年は平均点で全国より-0.6ポイント、新宿区より-0.7ポイントの結果となった。特に「化学変化と原子・分子」の領域で全国、新宿区ともに-2.5ポイントほど低くなっており、今一度定着を図るため、春休みの課題等で補っていく。 【調】 1学年は平均点で全国より-11.5ポイント、新宿区より-7.0ポイントと厳しい結果となった。単元別でも「生物の観察と分類の仕方」以外は平均を下回った。このことから現在学習している以外、つまり既習分野の定着が弱いことがわかるので、春休みにデジタルドリル等を活用して徹底した基礎・基本の定着を図っていく。
英 語	【調】 3学年は、新宿区学力定着度調査の結果によると、4技能を使って表現する機会やコミュニケーション活動を増やしたことで、「聞くこと」で特にポイントが高く、全国平均を17.3ポイント上回った。反対に、「語形・語法の知識・理解」、「並べ替えによる英作文」など基礎基本の理解がやや低かった。 【調】 2学年は、新宿区学力定着度調査の結果によると、基礎的なことはよく定着しているが、領域別の「書くこと」において、全国平均は10ポイント上回っているが、区平均では4ポイント下回った。	・「語形・語法の知識・理解」は、区の平均を下回っているため、基礎基本を定着させる必要がある。 ・場面を設定し、「書くこと」に重点を置いた帯活動を考え、アウトプットを繰り返し行っていく課題を作っていく。	・2学年、3学年ともに、授業の最初の活動（帯活動）を工夫し、前の授業の「振り返りの時間」を確保することで、語形・語法の知識・理解の定着を図る。また、ペアワークなどコミュニケーション活動を通して、即興で対応できる力を身につけ、今年から受験に取り入れられる「中学校英語スピーキングテスト」にも対応できる力を養う。さらに、ICT機器を活用した復習を行うことで、D層の引き上げを図る。	・3学年は、今年度の新宿区学力定着度調査では、「聞くこと」は5.5ポイント、「読むこと」は12.9ポイント、「書くこと」で11.5ポイント、すべてで全国平均を上回った。また、A層が45.7%、D層が13.3%と、D層の引き上げができたように感じる。受験に向けて、さらに「思考・判断・表現」の力をつけていけるよう、工夫していきたい。 ・2学年は、「書くこと」に重点を置いた活動を行い、それを『プレゼンテーション』や『ALTとのコミュニケーションテスト』につなげることで、自分の気持ちが伝わるという「達成感」や「自信」を、少しずつ身に付けさせることができた。また、小テストや補習を行い、授業についてこられない生徒に、粘り強く指導を続けていきたい。	【学】 3学年は、3年間の総仕上げとしてスピーキング活動に加え、英作文、長文を読み解く練習、単語や文房事項の復習、そしてデジタルソフトの問題を活用するなど、基礎基本の振り返りとともに、思考力を問う表現活動を行うことで、多くの生徒が自身をもって自分の考えを英語で伝えられるようになった。 【調】 2学年は、全国平均は19.4ポイント、区平均は3.3ポイント上回った。成果を上げているといえるが、A層とD層との差がどの項目も大きい。来年度も、引き続きD層への課題や補習など工夫して取り入れていきたい。 【調】 1学年は、全国平均においてはすべての項目上回っているが、区の平均と比べると、「応用」または「思考・判断・表現」の項目が7～9ポイント下回ってしまった。来年度は、基礎の定着はもちろんのこと、「思考・判断・表現」を意識した授業作りやテスト作りを心掛けたい。

【調】…新宿区学力定着度調査の結果から見える学習状況

【学】…授業での様子や提出物、作品、ワークテスト、デジタルドリル等から見える学習の状況

※分量は2ページ以上となってもよい。